

洋上風力関係船舶確保のあり方に関する検討会

第3回 検討会資料

第2回検討会で得られた
意見への対処方針について

令和8年1月28日

商船三井マリテックス株式会社

目 次

1. 第2回検討会に対する対処方針.....	1
1.1 議事2「洋上風力関係船舶の需要予測に関する調査」.....	1
1.2 議事3「浮体式洋上風力発電の海上施工に用いるアンカーハンドラー船及びSOVの設計条件について」.....	2

1. 第2回検討会に対する対処方針

第2回検討会における委員会の指摘事項において、検討課題としてあった点について、その対処方針を議事案ごとに示す。

参考資料1に第2回検討委員会の議事概要を示す。

1.1 議事2「洋上風力関係船舶の需要予測に関する調査」

議事1に関する指摘事項及び対処方針を表1.1-1に示す。

表1.1-1 議事2に関する指摘事項及び対処方針

隻数の推定方法について	
指摘事項	対処方針
・今回示した結果はアンケート回答結果をもとに、機械的に試算した一例であり、海外事例等の実績や企業へのヒアリングなども引き続き調査を行い、予測結果の精度を上げ、精緻化することをお願いしたい。	・承知した。

1.2 議事3「浮体式洋上風力発電の海上施工に用いるアンカーハンドラー船及び SOV の設計条件について」

議事3に関する指摘事項及び対処方針を表1.2-1に示す。

表1.2-1 議事3に関する指摘事項及び対処方針

隻数の推定方法について	
指摘事項	対処方針
<ul style="list-style-type: none"> ・SOV やアンカーハンドラーの作業限界について、DP2の位置保持能力は指定海象条件での全方位 DP 能力計算結果を基に算出するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その予定である。
<ul style="list-style-type: none"> ・マリンワランティサーベイからは、DP 関連機器のいずれか1つが故障した場合でも、作業限界条件内の DP 性能を有することが求められるため、動的な装置の故障時の能力を基準にした方が競争力はある。また、DP 性能の検討であれば有義波周期6.5秒が良いが、船体の動揺解析等を行う場合は8～10秒で検討すべきと考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・DP の設定はフェイラーベースで検討し、SOV の有義波周期については8～10秒の範囲で再検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・SOV の有義波周期は日本の海域特性を考慮し8～10秒で決定して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・有義波周期は8～10秒で設定する。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の市場には適さない可能性があるため、ボラードプル400t やウインチ1,000t が妥当か再検討した方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曳航の最大曳引能力については業界アンケートに基づいた試設計の1例との理解である。なお、係留の最大ウインチ能力については、アンカーハンドラー船の設計に影響するものではないため、設計条件の項目から削除する。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本造船学会出典資料の OSV 向け耐航性基準で耐航性評価を行っているが、他に洋上風力関連船舶の作業限界の基準値について情報がなく、今後海外も含めてヒアリングした方が良いと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本活動においてヒアリングを行う計画は無いが、SOV の設計については動揺吸収型ギャングウェイメーカーによる船体動揺性能の指標への適合性を参考として確認する。

